

「山形県内医療施設における患者動向  
及び医療従事者等に係る現状調査」  
報 告 書

平成 17 年 7 月 20 日

山形大学医学部

山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座

## 目 次

	ページ
I 調査の概要	1～2
1 調査の目的 2 調査主体 3 調査対象 4 調査期間 5 調査回答数	
6 調査票及び調査項目 7 調査票集計及びデータ分析等担当	
8 数値表記の定義 / 報告書におけるデータ取り扱い上の留意点	
II 調査結果について	
1 診療圏について	2
2 職種別職員数について	3
3 医師・歯科医師について	10
4 患者数について	36
5 病床数等について	63
6 手術件数について	68
7 患者紹介率について	75
8 施設基準の状況	77
9 医療機器の設置状況及び稼働実績	79
10 各指定施設及び各学会認定施設	105
<調査票様式等>	
○ 調査依頼文	
○ 調査票様式	

# 山形県内医療施設における患者動向 及び医療従事者等に係る現状調査結果報告

## 1 調査の概要

### 1 調査の目的

山形県内全域の医療機関における患者数、病床利用率、職員数、手術数、医療機器の設置状況、不足医師数等を地域別に把握し、医師等マンパワー及び医療機器等の医療資源などの現状分析に係る基礎データを収集し、今後の地域における医療提供体制等の具体的な検討の資料に資する。

2 調査主体 山形県及び山形大学蔵王協議会

3 調査対象 一般病床を有する山形県内の全医療施設：51 施設

4 調査期間 平成 17 年 1 月 24 日～2 月 25 日

5 調査回答数 51 医療施設のうち 45 施設（回答率 88.2%）

<回答施設の内訳（地域別・病院種別）>

	国 立	公立・公的	自治体	私 的	合 計
村山地域	2	3	8	8	21
最土地域	-	-	4	-	4
置賜地域	1	3	4	1	9
庄内地域	-	-	4	7	8
合 計	3	6	20	16	45

※ 「国立」：独立行政法人国立病院機構病院及び大学病院

「公立・公的」：一部事務組合立病院、共済組合病院及び医療法第 31 条に規定する公的医療機関

「自治体」：県立及び市町立病院

「私的」：医療法人等の私的病院

6 調査票及び調査項目

別添のとおり

7 調査票回収、個票集計及び集計データ分析等担当

山形大学医学部及び山形大学大学院医学系研究科

8 数値表記の定義

「0 (0.0)」：単位未満の値

「-」または「空欄」：該当数値なし

## 報告書におけるデータ取り扱い上の留意事項

- 医療法に基づく標榜科目の関係により、例えば、データ上「循環器科」の医師及び患者数がゼロであっても、実際は「内科」の医師が循環器系疾患患者の診療に当たっている医療施設があるなど、医師に係る診療科別データの取り扱いには十分留意してください。
- 「医師一人当たり」に関するデータについては、非常勤医師を除く常勤医師のみを母数としています。
- 手術件数において、電算システム上の取り扱い等により「主たる手術及び従たる手術を各1件」もしくは「主たる手術及び従たる手術で計1件」と医療施設によりその計上の方法が異なる場合がありますが、本報告書では各医療施設から提出された手術件数をそのまま集計しています。

## II 調査結果について

### 1 診療圏について

#### (1) 診療圏範囲

各医療施設が「自施設の診療対象エリア」と捉えている診療圏カバー率（※）を地域別に見ると、置賜地域及び庄内地域では自医療圏のカバー率が100.0%、最上地域では同88.9%と高い比率となっている。

一方、村山地域では、自医療圏を6割以上（61.6%）カバーしているものの、最上地域を11.1%、置賜地域を13.8%、庄内地域を13.5%とそれぞれカバーしており、大学病院及び県基幹病院等広域医療施設の存在により、他3地域をそれぞれ10%以上カバーしていることが特徴である。

※地域別診療圏カバー率＝各医療施設が自らの診療圏とした市町村数の当該地域計／診療圏対象市町村数

表1- (1) 診療圏カバー率（地域別）

（単位：%）

		診療圏対象地域				
		村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
二次医療圏 医療施設の属する	村山地域	61.6	11.1	13.8	13.5	100.0
	最上地域	11.1	88.9			100.0
	置賜地域			100.0		100.0
	庄内地域				100.0	100.0

#### (2) 診療圏内最遠距離及び所要時間

地域別の医療圏における各医療施設から最遠地区までの距離は、村山地域が平均52.11 km（最大134 km、最小7 km）、最上地域が同29.95 km（最大37 km、最小16 km）、置賜地域が同37.57 km（最大80 km、最小18 km）、庄内地域が同29.68 km（最大45 km、最小4 km）であった。全体平均は、同41.78 kmであった。

また、各医療施設から最遠地区までの所要時間については、村山地域が平均約1時間27分（最長6時間10分、最短20分）、最上地域が平均約38分（最長50分、最短20分）、置賜地域が平均約1時間8分（最長3時間、最短30分）、庄内地域が平均約48分

(最長1時間10分、最短20分)であった。

(1)の診療圏範囲を反映し、村山地域では最遠地区までの平均距離及び所要時間ともに最も長くなっている。

表1-(2) 各医療圏における最遠地区までの距離及び所要時間

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
<距離>					
回答施設数	18	4	7	9	38
平均	52.11	29.95	37.57	29.68	41.78
最大	134	37	80	45	
最小	7	16	18	4	
<所要時間>					
回答施設数	18	4	7	10	39
平均	1:27:13	0:38:45	1:08:34	0:48:00	1:08:51
最大	6:10:00	0:50:00	3:00:00	1:10:00	
最小	0:20:00	0:20:00	0:30:00	0:20:00	

## 2 職種別職員数について

### (1) 職種別構成割合

#### 全体

看護師が全体の45.3%と最も構成比率が高く、准看護師及び看護助手を含む看護職全体では56.7%と半分以上を占めている。次いで医師が10.4%、事務職9.1%、臨床検査技師3.8%、調理師3.0%、助産師、薬剤師、診療放射線技師、現業労務職等が2%台となっている。

#### 地域ごとの特徴

- ・ 医師：村山地域が12.3%と最も高く、次いで置賜地域が8.9%、庄内地域が8.0%、最上地域が7.7%となっており、村山地域と最上地域の差は4.6ポイントとなっている。
- ・ 看護師：最上地域が48.2%で、村山地域45.3%、置賜地域45.2%、庄内地域44.7%に比べ地域別では最も高くなっている。
- ・ 事務職：庄内地域が9.7%で、村山地域9.1%、置賜地域8.7%、最上地域7.6%を上回り最も高くなっている。
- ・ 臨床工学技士：庄内地域が0.7%と最も高く、村山地域及び置賜地域0.5%となっているが、最上地域はゼロで配置されていない。
- ・ 理学療法士：村山地域が1.3%と最も高く、最上地域及び置賜地域1.0%、庄内地域0.9%を上回っている。
- ・ 調理師：置賜地域が3.7%と最も高く、最上地域3.2%、庄内地域3.1%、村山地



域2.8%を上回っている。

- ・ その他の職種では地域による大きな差異は見られなかった。

表2- (1) 職員構成割合 (地域別・職種別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	4	割合	9	割合	11	割合	45	割合
管理職(再掲)	217	3.5%	23	2.9%	63	3.1%	76	2.6%	379	3.2%
医師	756	12.3%	61	7.7%	183	8.9%	237	8.0%	1,237	10.4%
歯科医師	28	0.5%	-	-	3	0.1%	5	0.2%	36	0.3%
看護師	2,774	45.3%	382	48.2%	933	45.2%	1319	44.7%	5,407	45.3%
准看護師	253	4.1%	49	6.2%	174	8.4%	261	8.8%	737	6.2%
看護助手	349	5.7%	28	3.5%	119	5.7%	125	4.2%	621	5.2%
助産師	131	2.1%	22	2.8%	44	2.1%	49	1.7%	246	2.1%
診療放射線技師	144	2.3%	19	2.4%	46	2.2%	62	2.1%	271	2.3%
診療X線技師	3	0.0%	-	-	5	0.2%	-	-	8	0.1%
薬剤師	148	2.4%	22	2.8%	49	2.4%	74	2.5%	293	2.5%
臨床検査技師	228	3.7%	28	3.5%	77	3.7%	121	4.1%	454	3.8%
衛生検査技師	4	0.1%	-	-	-	-	-	-	4	0.0%
臨床工学技士	33	0.5%	-	-	11	0.5%	22	0.7%	66	0.6%
理学療法士	82	1.3%	8	1.0%	20	1.0%	26	0.9%	136	1.1%
作業療法士	45	0.7%	2	0.3%	11	0.5%	13	0.4%	71	0.6%
言語聴覚士	18	0.3%	-	-	2	0.1%	5	0.2%	25	0.2%
あん摩マッサージ指圧師	11	0.2%	2	0.3%	6	0.3%	6	0.2%	25	0.2%
視能訓練士	10	0.2%	-	-	3	0.1%	3	0.1%	16	0.1%
歯科衛生士	17	0.3%	-	-	1	0.0%	3	0.1%	21	0.2%
歯科技工士	6	0.1%	-	-	1	0.0%	1	0.0%	8	0.1%
診療情報管理士	7	0.1%	-	-	1	0.0%	4	0.1%	12	0.1%
管理栄養士	47	0.8%	3	0.4%	19	0.9%	29	1.0%	98	0.8%
栄養士	7	0.1%	6	0.8%	8	0.4%	6	0.2%	27	0.2%
調理師	171	2.8%	25	3.2%	77	3.7%	90	3.1%	363	3.0%
医療社会事業従事者	29	0.5%	-	-	7	0.3%	9	0.3%	45	0.4%
医療社会事業従事者 (MSW 再掲)	17	0.3%	-	-	6	0.3%	9	0.3%	32	0.3%
事務職	560	9.1%	60	7.6%	180	8.7%	285	9.7%	1,085	9.1%
現業労務職	150	2.4%	59	7.4%	55	2.7%	63	2.1%	327	2.7%
その他(※)	105	1.7%	16	2.0%	29	1.4%	132	4.5%	282	2.4%
地域医療連携部門 (再掲)	31	0.5%	3	0.4%	14	0.7%	11	0.4%	59	0.5%
合計	6,128	100.0%	792	100.0%	2,062	100.0%	2,950	100.0%	11,932	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

(2) 100床当たり職員数比較(地域別)

**全体**

全体では、最上地域が123.8人で最も多く、次いで村山地域が121.1人、庄内地域117.8人、置賜地域115.9人となっている。

**地域別・職種別**

- ① 医師：村山地域が14.9人と最も多く、置賜地域10.3人、最上地域及び庄内地域ともに9.5人に比べ大幅に上回っている。
- ② 看護職  
看護職全体では、最上地域が71.7人と最も多く、次いで置賜地域68.9人、庄内地域68.1人、村山地域66.7人となっている。  
ア 看護師：最上地域が59.7人と最も多く、村山地域54.8人、庄内地域52.7人、置賜地域52.4人となっている。  
イ 准看護師：庄内地域が10.4人と最も多く、次いで置賜地域が9.8人、最上地域7.7人、村山地域5.0人で、庄内地域と村山地域の差は2倍以上となっている。  
ウ 看護助手：村山地域が6.9人と最も多く、次いで置賜地域6.7人、庄内地域5.0人、最上地域4.4人となっている。
- ③ 診療放射線技師：最上地域が3.0人、村山地域2.8人、置賜地域2.6人、庄内地域2.5人となっている。
- ④ 薬剤師：最上地域が3.4人で最も高く、庄内地域が3.0人、村山地域2.9人、置賜地域が2.8人となっている。
- ⑤ 臨床検査技師：庄内地域が4.8人と最も高く、村山地域4.5人、最上地域4.4人、置賜地域4.3人となっている。
- ⑥ 管理栄養士：庄内地域が1.2人、置賜地域1.1人、村山地域0.9人とほとんど差がないものの、最上地域は0.5人と他地域のほぼ2分の1の配置となっている。
- ⑦ 栄養士：最上が0.9人と最も高く、置賜地域0.4人、庄内地域0.2人、村山地域0.1人となっている。管理栄養士及び栄養士の比率を見ると、最上地域は栄養士の割合が高い。
- ⑧ 事務職：庄内地域が11.4人と最も高く、村山地域11.1人、置賜地域10.1人、最上地域9.4人となっている。
- ⑨ 地域医療連携部門(再掲)：置賜地域が0.8人、村山地域0.6人、最上地域0.5人、庄内地域が0.4人となっている。

表2-(2)-1 病床100床当たり職員数(地域別・職種別)

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	全体
管理職(再掲)	4.3	3.6	3.5	3.0	3.8
医師	14.9	9.5	10.3	9.5	12.4
歯科医師	0.6	-	0.2	0.2	0.4

看護師	54.8	59.7	52.4	52.7	54.2
准看護師	5.0	7.7	9.8	10.4	7.4
看護助手	6.9	4.4	6.7	5.0	6.2
助産師	2.6	3.4	2.5	2.0	2.5
診療放射線技師	2.8	3.0	2.6	2.5	2.7
診療X線技師	0.1	-	0.3	-	0.1
薬剤師	2.9	3.4	2.8	3.0	2.9
臨床検査技師	4.5	4.4	4.3	4.8	4.5
衛生検査技師	0.1	-	-	-	0.0
臨床工学技士	0.7	-	0.6	0.9	0.7
理学療法士	1.6	1.3	1.1	1.0	1.4
作業療法士	0.9	0.3	0.6	0.5	0.7
言語聴覚士	0.4	-	0.1	0.2	0.3
あん摩マッサージ指圧師	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3
視能訓練士	0.2	-	0.2	0.1	0.2
歯科衛生士	0.3	-	0.1	0.1	0.2
歯科技工士	0.1	-	0.1	0.0	0.1
診療情報管理士	0.1	-	0.1	0.2	0.1
管理栄養士	0.9	0.5	1.1	1.2	1.0
栄養士	0.1	0.9	0.4	0.2	0.3
調理師	3.4	3.9	4.3	3.6	3.6
医療社会事業従事者	0.6	-	0.4	0.4	0.5
同上(MSW 再掲)	0.3	-	0.3	0.4	0.3
事務職	11.1	9.4	10.1	11.4	10.9
現業労務職	3.0	9.2	3.1	2.5	3.3
その他(※)	2.1	2.5	1.6	5.3	2.8
地域医療連携部門(再掲)	0.6	0.5	0.8	0.4	0.6
合計	121.1	123.8	115.9	117.8	119.5

看護職(再掲)	66.7	71.7	68.9	68.1	67.8
---------	------	------	------	------	------

病床数計	5,059	640	1,779	2,504	9,982
------	-------	-----	-------	-------	-------

#### 病院種別・職種別

① 医師：国立が26.5人と最も多く、自治体12.2人、公立・公的病院11.5人の2倍超となっている。私的是6.6人と最も少ない。

#### ② 看護職

全体では、自治体が74.9人と最も多く、次いで公立・公的が68.4人、私的が59.9人、国立が54.3人となっている。自治体と国立との差は20.6人にのぼり、本県にお



ける自治体病院の看護職員配置の相対的な厚さがうかがえる。

ア 看護師：自治体が65.1人と最も多く、次いで公立・公的が56.1人に対し、国立が49.2人、私的が33.6人で、自治体と私的の差は31.5人と大きな格差が見られる。

イ 准看護師：私的が15.5人と際立って多く、公立・公的6.5人、自治体4.6人、国立3.4人と看護師とは逆の配置水準となっている。

ウ 看護助手：私的が10.7人と最も多く、公立・公的が5.8人、自治体が5.2人と続き、国立は1.8人と極めて少ない。

③ 診療放射線技師：公立・公的が3.0人と最も多く、次いで自治体2.8人、私的2.6人、国立2.0人であり、公立・公的と国立との差は1.5倍となっている。

④ 薬剤師：公立・公的が3.4人と最も多く、次いで自治体3.1人、私的2.6人、国立2.2人となっている。

⑤ 臨床検査技師：自治体及び私的が4.9人と最も多く、次いで公立・公的4.4人、国立が2.8人となっている。

⑥ 管理栄養士：私的が1.3人と最も多く、次いで公立・公的及び自治体ともに0.9人、国立0.7人となっている。

⑦ 栄養士：国立、自治体及び私的がともに0.3人に対し、公立・公的は0.0人で管理栄養士の配置に比重を置いていることがうかがえる。

⑧ 事務職：私的が14.3人で最も多く、次いで公立・公的10.6人、国立9.6人、自治体9.5人となっている。

⑨ 地域医療連携部門（再掲）：国立が0.8人と最も多く、公立・公的0.7人、自治体及び私的がともに0.5人となっている。

表2-(2)-2 病床100床当たり職員数（病院種別・職種別）

	国立	公立・公的	自治体	私的	全体
管理職(再掲)	1.4	4.7	2.9	6.0	3.8
医師	26.5	11.5	12.2	6.6	12.4
歯科医師	1.5	0.2	0.2	0.2	0.4
看護師	49.2	56.1	65.1	33.6	54.2
准看護師	3.4	6.5	4.6	15.5	7.4
看護助手	1.8	5.8	5.2	10.7	6.2
助産師	0.6	4.0	3.2	0.6	2.5
診療放射線技師	2.0	3.0	2.8	2.6	2.7
診療X線技師	-	0.3	-	-	0.1
薬剤師	2.2	3.4	3.1	2.6	2.9
臨床検査技師	2.8	4.4	4.9	4.9	4.5
衛生検査技師	0.1	-	-	-	0.0
臨床工学技師	0.3	0.7	0.3	1.6	0.7
理学療法士	0.8	1.8	1.1	1.9	1.4

作業療法士	0.6	1.1	0.4	1.1	0.7
言語聴覚士	0.1	0.4	0.2	0.3	0.3
あん摩マッサージ指圧師	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3
視能訓練士	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2
歯科衛生士	0.1	0.2	0.2	0.4	0.2
歯科技工士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
診療情報管理士	0.0	0.2	0.1	0.2	0.1
管理栄養士	0.7	0.9	0.9	1.3	1.0
栄養士	0.3	0.0	0.3	0.3	0.3
調理師	3.2	2.2	3.9	4.5	3.6
医療社会事業従事者	0.1	0.3	0.4	0.8	0.5
同上(MSW再掲)	0.0	0.3	0.2	0.7	0.3
事務職	9.6	10.6	9.5	14.3	10.9
現業労務職	1.9	1.8	3.7	4.2	3.3
その他(※)	3.7	0.2	2.3	5.5	2.8
地域医療連携部門(再掲)	0.8	0.7	0.5	0.5	0.6
合計	111.9	116.6	125.2	114.5	119.5

看護職(再掲)	54.3	68.4	74.9	59.9	67.8
---------	------	------	------	------	------

病床数計	1,132	1,880	4,613	2,357	9,982
------	-------	-------	-------	-------	-------

#### 「病院運営実態分析調査」との比較

「平成16年度病院運営実態分析調査－一般病院－（以下、「実態調査」という。）」から100床当たり職員数を比較した。

合計では、本調査が119.5人に対し、実態調査が121.7人とほぼ同水準の人員配置となっている。職種別の比較結果は次のとおり。

- ① 医師・歯科医師：本調査が12.8人に対し、実態調査は14.3人で、本調査が実態調査に比べ（以下同じ）1.5人少ない。
- ② 看護職
 

看護職全体では、本県調査が67.8人に対し実態調査が72.6人で、4.8人少ない。

  - ア 看護師：本調査が54.2人に対し、実態調査が58.5人と4.3人少ない。
  - イ 准看護師：本調査が7.4人に対し、実態調査が6.8人と0.6人多い。
  - ウ 看護助手：本調査が6.2人に対し、実態調査が7.2人と1.0人少ない。
- ③ 診療放射線技師・診療X線技師：本調査が2.8人に対し、実態調査が3.2人と0.4人少ない。
- ④ 薬剤師：本調査が2.9人に対し、実態調査が3.2人と0.3人少ない。
- ⑤ 臨床検査技師・衛生検査技師：本調査が4.5人に対し、実態調査が4.6人でほとんど差がなかった。

- ⑥ 管理栄養士・栄養士：本調査が1.3人に対し、実態調査が1.2人でほとんど差がなかった。
- ⑦ 事務職：本調査が10.9人に対し、実態調査が10.5人とほとんど差がなかった。

表2-(2)-3 病床100床当たり職員数—病院運営実態調査との比較—

(単位：人)

	本調査	病院運営実態調査 (一般病院)	差
医師	12.8	14.3	△ 1.5
歯科医師			
看護師	54.2	58.5	△ 4.3
准看護師	7.4	6.8	0.6
看護助手	6.2	7.2	△ 1.0
助産師	2.5	-	-
診療放射線技師	2.8	3.2	△ 0.4
診療X線技師			
薬剤師	2.9	3.2	△ 0.3
臨床検査技師	4.5	4.6	0.0
衛生検査技師			
臨床工学技士	0.7	0.8	△ 0.1
理学療法士	1.4	1.7	△ 0.3
作業療法士	0.7	0.6	0.1
言語聴覚士	0.3	0.2	0.1
あん摩マッサージ指圧師	0.3	0.2	0.1
視能訓練士	0.2	0.3	△ 0.1
歯科衛生士	0.3	0.4	△ 0.1
歯科技工士			
診療情報管理士	0.1	0.2	△ 0.1
管理栄養士	1.3	1.2	0.1
栄養士			
調理師	3.6	2.1	1.5
医療社会事業従事者	0.5	0.5	0.0
事務職	10.9	10.5	0.4
現業労務職	3.3	-	-
その他(※)	2.8	-	-
地域医療連携部門(再掲)	0.6	-	-
合計	119.5	121.7	△ 2.2

看護職計(再掲)	67.8	72.6	△ 4.8
----------	------	------	-------

※「病院運営実態分析調査」：当該調査は、全国公私病院連盟及び社団法人日本病院会が協力し、例年6月に実施している。今回回答のあった病院数は1,201病院（回収率34.9%）、その内訳は、国立・大学付属病院22、自治体病院659、その他公的病院247、私的病院273。

### 3 医師・歯科医師について

#### (1) 診療科別常勤医師数

##### 全体

常勤医師総数は1,082人で、診療科別では、「内科」が220人（20.3%）で最も多く、次いで「外科」154人（14.2%）、「整形外科」95人（8.8%）、「小児科」59人（5.5%）、「産婦人科」52人（4.8%）、「麻酔科」46人（4.3%）、「脳神経外科」45人（4.2%）の順となっている。

地域別では、村山地域が613人（56.7%）と最も多く、次いで庄内地域が229人（21.2%）、置賜地域が180人（16.6%）、最上地域が60人（5.5%）であった。

##### 「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成14年）との比較

病院従事者割合及び診療科別医師数の構成割合等について、本調査と「平成14年医師・歯科医師・薬剤師調査（以下「三師調査」という。）」で比較した。

病院従事者割合を三師調査で見ると、全国は医師総数262,687人のうち病院従事者は159,131人で60.6%に対し、本調査全体では58.4%とほとんど差はなかった。

地域別では、最上地域（62.1%）及び村山地域（61.5%）が全国比率を上回り、置賜地域は57.1%とやや下回っている。庄内地域は50.0%で病院従事者と診療所等従事者が同率となっている。

今回の調査による常勤医師数及び三師調査における病院従事者医師数を基にその捕捉率は、全体では77.8%、村山地域が72.5%、最上地域が77.9%、置賜地域が84.5%、庄内地域が89.8%となっている。

次に、診療科別医師構成割合を見ると、本調査が三師調査（病院従事者）に比べ構成割合の少ない診療科は、「精神科」は本調査が2.5%に対し、三師調査では6.2%で3.7ポイント本調査が少なく、「内科」は20.3%に対し22.6%で2.3ポイント、「循環器科」は2.9%に対して4.5%で1.6ポイントといずれも本調査が少なかった。

一方、「外科」は14.2%に対して11.7%で2.5ポイント、「整形外科」は8.8%に対して7.6%で1.2ポイント、「脳神経外科」は4.2%に対して3.5%で0.7ポイント、「耳鼻咽喉科」は3.2%に対して2.5%で0.7ポイント、「麻酔科」は4.3%に対して3.6%で同じく0.7ポイント、いずれも本調査が多かった。

その他の診療科については、構成比にほとんど差は見られなかった。



表 3-(1)-1-1 病院従事者割合及び捕捉率等—平成 14 年医師・歯科医師・薬剤師調査から—

	H14 年医師・歯科医師・薬剤師調査			本調査		
	医師総数 (A)	うち病院従事者 (B)	病院従事者割合 (B)/(A)	医師総数 (C)	地域割合	捕捉率 (C)/(B)
村山地域	1,376	846	61.5%	613	56.7%	72.5%
最上地域	124	77	62.1%	60	5.5%	77.9%
置賜地域	373	213	57.1%	180	16.6%	84.5%
庄内地域	510	255	50.0%	229	21.2%	89.8%
合計	2,383	1,391	58.4%	1,082	100.0%	77.8%

全国	262,687	159,131	60.6%
----	---------	---------	-------

表 3-(1)-1-2 診療科別医師構成割合—平成 14 年医師・歯科医師・薬剤師調査との比較—

	診療科別構成割合比較		
	本調査結果 A	医師・歯科医師・薬剤師 調査(病院従事者) B	差(A-B)
内科	20.3	22.6	△ 2.3
心療内科	0.0	0.2	△ 0.2
精神科	2.5	6.2	△ 3.7
神経内科(神経科)	2.4	2.1	0.3
呼吸器科	2.0	1.8	0.2
消化器科・胃腸科	4.1	4.2	△ 0.1
循環器科	2.9	4.5	△ 1.6
アレルギー科	0.0	0.1	△ 0.1
リウマチ科	0.0	0.3	△ 0.3
小児科	5.5	5.3	0.2
外科	14.2	11.7	2.5
整形外科	8.8	7.6	1.2
形成外科	0.8	0.9	△ 0.1
気管食道科	0.0	0.0	0.0
脳神経外科	4.2	3.5	0.7
呼吸器外科	0.6	0.6	△ 0.0
心臓血管外科	1.6	1.6	0.0
小児外科	0.2	0.4	△ 0.2
皮膚科	2.2	2.2	0.0
泌尿器科	4.0	3.0	1.0
産婦人科	4.8	3.9	0.9
産科	0.3	0.2	0.1
婦人科	0.2	0.3	△ 0.1

眼科	3.3	3.4	△ 0.1
耳鼻咽喉科	3.2	2.5	0.7
リハビリテーション科	0.6	0.8	△ 0.2
放射線科	3.0	2.8	0.2
麻酔科	4.3	3.6	0.7
病理	1.0	—	—
こゝ門科	0.0	0.1	△ 0.1
歯科口腔外科	1.7	—	—
歯科	0.6	—	—
矯正歯科	0.0	—	—
その他	0.9	3.6	△ 2.7
合計	100.0	100.0	

#### 地域別比較 1－構成割合－

診療科別医師数の構成割合を地域別に比較すると、「内科」は最上地域が40.0%と極めて高く、次いで村山地域は21.4%、庄内地域は17.5%となっている。一方、置賜地域は13.9%と低く、同地域の「外科」と同構成割合となっている。

全国的に診療科の医師偏在が問題となっている「小児科」「産婦人科」「麻酔科」「放射線科」を見ると、「小児科」は最上地域以外では5%台の構成割合に対し、最上地域は3.3%と不足傾向がうかがえる。「産婦人科」も最上地域が1.7%と他3地域(4.4%～5.2%)に比べ極めて低い割合となっている。「麻酔科」は、村山地域、最上地域及び庄内地域が4.4%～5.0%に対し、置賜地域が3.3%とやや低い割合となっている。「放射線科」は、村山地域(3.6%)及び最上地域(3.3%)が3%台、置賜地域が2.2%に対し、庄内地域は1.7%と最も低く、村山地域の約2分の1となっている。

表 3-(1)-2 医師数及び構成比率(地域別・診療科別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	回答施設数	割合	回答施設数	割合	回答施設数	割合	回答施設数	割合
内科	131	21.4%	24	40.0%	25	13.9%	40	17.5%	220	20.3%
心療内科										
精神科	14	2.3%			9	5.0%	4	1.7%	27	2.5%
神経内科(神経科)	18	2.9%	1	1.7%	4	2.2%	3	1.3%	26	2.4%
呼吸器科	13	2.1%			6	3.3%	3	1.3%	22	2.0%
消化器科・胃腸科	15	2.4%			15	8.3%	14	6.1%	44	4.1%
循環器科	10	1.6%			11	6.1%	10	4.4%	31	2.9%
アレルギー科										
リウマチ科										
小児科	35	5.7%	2	3.3%	10	5.6%	12	5.2%	59	5.5%
外科	76	12.4%	10	16.7%	25	13.9%	43	18.8%	154	14.2%

整形外科	53	8.6%	7	11.7%	17	9.4%	18	7.9%	95	8.8%
形成外科	4	0.7%			1	0.6%	4	1.7%	9	0.8%
気管食道科										
脳神経外科	29	4.7%	2	3.3%	7	3.9%	7	3.1%	45	4.2%
呼吸器外科	2	0.3%					4	1.7%	6	0.6%
心臓血管外科	9	1.5%			3	1.7%	5	2.2%	17	1.6%
小児外科	1	0.2%					1	0.4%	2	0.2%
皮膚科	16	2.6%	2	3.3%	3	1.7%	3	1.3%	24	2.2%
泌尿器科	26	4.2%	2	3.3%	7	3.9%	8	3.5%	43	4.0%
産婦人科	32	5.2%	1	1.7%	9	5.0%	10	4.4%	52	4.8%
産科							3	1.3%	3	0.3%
婦人科	1	0.2%					1	0.4%	2	0.2%
眼科	21	3.4%	2	3.3%	7	3.9%	6	2.6%	36	3.3%
耳鼻咽喉科	21	3.4%	2	3.3%	6	3.3%	6	2.6%	35	3.2%
リハビリテーション科	5	0.8%					1	0.4%	6	0.6%
放射線科	22	3.6%	2	3.3%	4	2.2%	4	1.7%	32	3.0%
病理	5	0.8%			2	1.1%	4	1.7%	11	1.0%
麻酔科	27	4.4%	3	5.0%	6	3.3%	10	4.4%	46	4.3%
こう門科										
歯科口腔外科	12	2.0%			3	1.7%	3	1.3%	18	1.7%
歯科	5	0.8%					2	0.9%	7	0.6%
矯正歯科										
その他	10	1.6%							10	0.9%
合計	613	100.0%	60	100.0%	180	100.0%	229	100.0%	1,082	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

#### 地域別比較 2—病床 100 床当たり医師数—

主な診療科について地域別に比較してみると、「内科」は最上地域が 100 床当たり 12.9 人と最も多く、次いで庄内地域が 11.0 人、村山地域が 10.1 人であった。置賜地域は 8.3 人で最上地域と 4 人以上の差が見られる。

「小児科」では、庄内地域が 31.6 人と最も多く、次いで村山地域が 22.0 人、最上地域が 15.4 人に対し、置賜地域が 6.5 人と庄内地域の約 5 分の 1 となっている。

「脳神経外科」では、村山地域が 11.0 人、庄内地域が 8.6 人に対し、置賜地域が 5.4 人、最上地域が 4.5 人と村山地域の約半分または半分以下となっている。

「産婦人科」では、置賜地域が 15.3 人、次いで村山地域が 10.2 人、庄内地域が 9.8 人とほぼ同じ水準に対し、最上地域は 3.7 人で最も少なく、最上地域は置賜地域の約 4 分の 1 となっている。

「外科」は、置賜地域が 18.2 人と最も多く、次いで最上地域が 16.4 人、村山地域が 15.2 人、庄内地域が 13.5 人と上記診療科ほど際立った差は見られなかった。



「泌尿器科」は、庄内地域が20.0人と最も多く、次いで村山地域が16.0人、置賜地域が12.1人に対し、最上地域は8.3人と庄内地域の約4割となっている。

「整形外科」は、庄内地域が15.8人、置賜地域が12.4人、最上地域が10.8人に対し、村山地域が9.0人と最も少なく庄内地域の6割弱となっている。

表 3-(1)-3 病床 100 床当たり医師数（地域別・診療科別）

（単位：人）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	全体
内科	10.1	12.9	8.3	11.0	10.2
心療内科	—	—	—	—	—
精神科	35.0	—	5.8	28.6	12.9
神経内科(神経科)	16.1	—	6.8	10.0	12.9
呼吸器科	26.5	—	14.3		24.2
消化器科・胃腸科	17.6	—	22.1	15.1	17.9
アレルギー科	—	—	—	—	—
循環器科	19.2	—	34.4	100.0	33.0
リウマチ科	—	—	—	—	—
小児科	22.0	15.4	6.5	31.6	16.2
外科	15.2	16.4	18.2	13.5	15.2
整形外科	9.0	10.8	12.4	15.8	10.5
形成外科	22.2	—	25.0	40.0	28.1
器官食道科	—	—	—	—	—
脳神経外科	11.0	4.5	5.4	8.6	8.7
呼吸器外科	15.4	—	—	—	46.2
心臓血管外科	18.0	—	10.7	100.0	20.5
小児外科	—	—	—	—	—
皮膚科	41.0	20.0	30.0	30.0	34.8
泌尿器科	16.0	8.3	12.1	20.0	15.1
産婦人科	10.2	3.7	15.3	9.8	10.4
産科	—	—	—	—	—
婦人科	—	—	—	20.0	40.0
眼科	25.6	33.3	41.2	50.0	30.8
耳鼻咽喉科	20.6	16.7	16.2	14.3	18.1
リハビリテーション科	8.3	—	—	20.0	9.2
放射線科	88.0	—	—	—	128.0
麻酔科	540.0	—	600.0	142.9	353.8
病理	—	—	—	—	—
こう門科	—	—	—	—	—



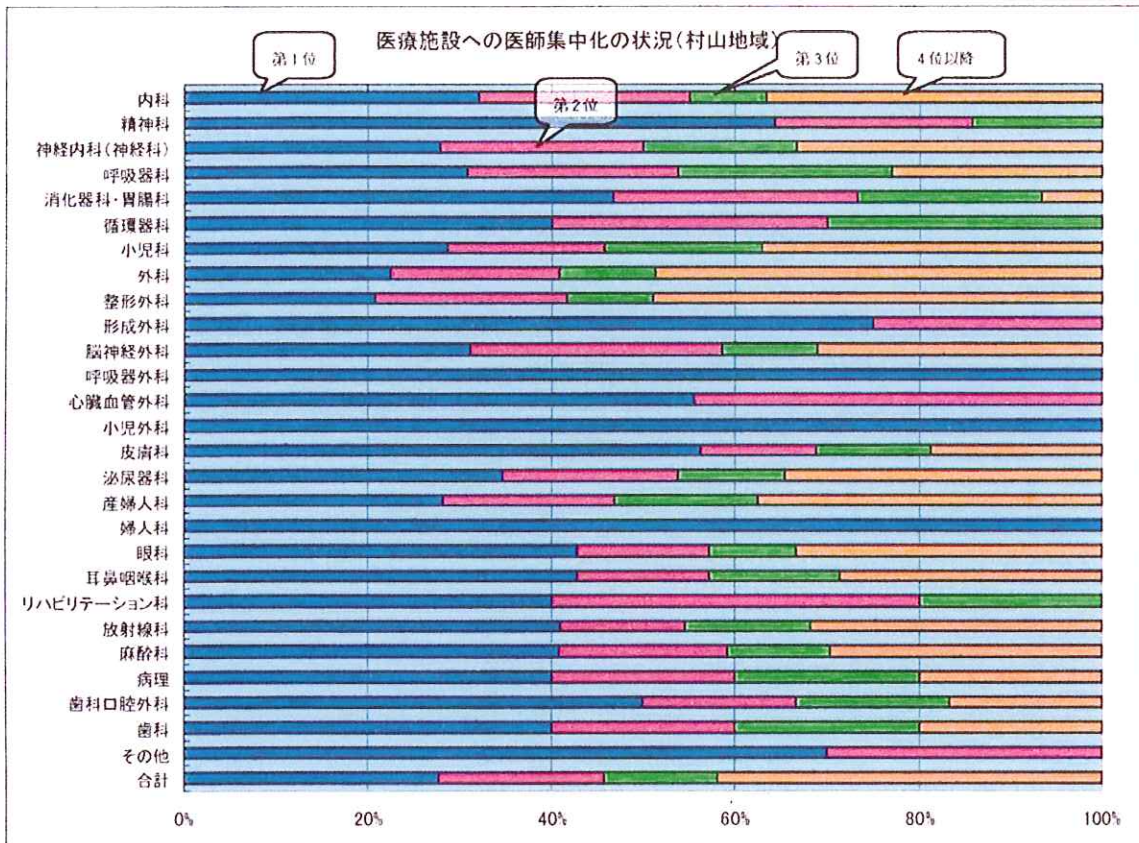
歯科口腔外科	70.6	—	75.0	60.0	69.2
歯科	250.0	—	—	25.0	70.0
矯正歯科	—	—	—	—	—
合計	16.8	12.9	12.4	17.5	15.7

#### 医療施設への医師集中化の状況

診療科ごとの総医師数における上位医療施設（上位3位まで）の占める比率を基に、当該医療圏における医師の医療施設への集中化状況を比較した。

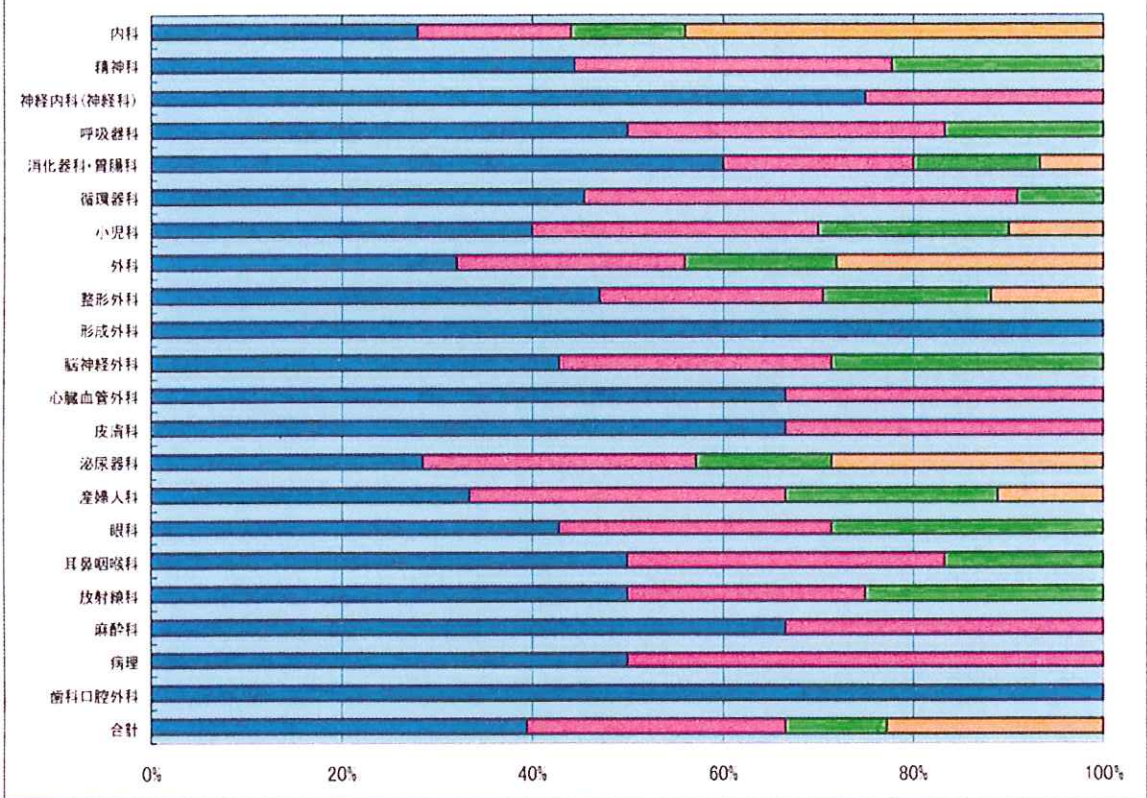
- ・ 村山地域：合計では、上位1施設で地域全体の27.7%、上位2施設で45.7%と約半数を占め、上位3施設では58.1%に達している。診療科別では、1施設で地域全体をカバーしている診療科は、「呼吸器外科」などであった。同じく上位2施設で地域全体をカバーしているのは、「形成外科」「心臓血管外科」であった。同じく上位3施設で地域全体をカバーしているのは、「精神科」「循環器科」「リハビリテーション科」であった。一方、上位3施設の比率が最も低い（各施設に分散配置されている）のは「整形外科」で50.9%、次いで「外科」が51.3%、「産婦人科」が62.5%、「小児科」が62.9%、「内科」が63.4%などであった。
- ・ 最上地域：全体で4施設と母数が少ないこともあり、診療科合計では、上位1施設で地域全体の76.7%、上位2施設で85.0%、上位3施設で91.7%に達している。診療科別では、「内科」「外科」「整形外科」を除き、すべて1施設で地域全体をカバーしている。
- ・ 置賜地域：合計では、上位1施設で全体の39.4%、上位2施設で66.7%と7割弱を占め、上位3施設では77.2%と8割弱に達している。診療科別では、1施設で地域全体をカバーしている診療科は、「形成外科」「歯科口腔外科」であった。同じく上位2施設で地域全体をカバーしているのは、「神経内科（神経科）」「心臓血管外科」「皮膚科」「麻酔科」「病理」であった。同じく上位3施設で地域全体をカバーしているのは、「精神科」「呼吸器科」「循環器科」「脳神経外科」「眼科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」であった。一方、上位3施設の比率が最も低いのは「内科」で56.0%、次いで「外科」が72.0%、「泌尿器科」が71.4%などであった。
- ・ 庄内地域：合計では、上位1施設で全体の30.1%、上位2施設で56.3%、上位3施設で73.8%に達している。診療科別では、1施設で地域全体をカバーしている診療科は、「呼吸器科」「呼吸器外科」「リハビリテーション科」などであった。同じく上位2施設で地域全体をカバーしているのは、「神経内科（神経科）」「形成外科」「心臓血管外科」「歯科口腔外科」であった。同じく上位3施設で地域全体をカバーしているのは、「精神科」「循環器科」「脳神経外科」「皮膚科」「泌尿器科」「眼科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」などであった。一方、上位3施設の比率が最も低い（各施設に分散配置されている）のは「内科」で50.0%、次いで「外科」が53.5%などであった。

表 3-(1)-4 医療施設への医師集中化の状況（地域別・診療科別）

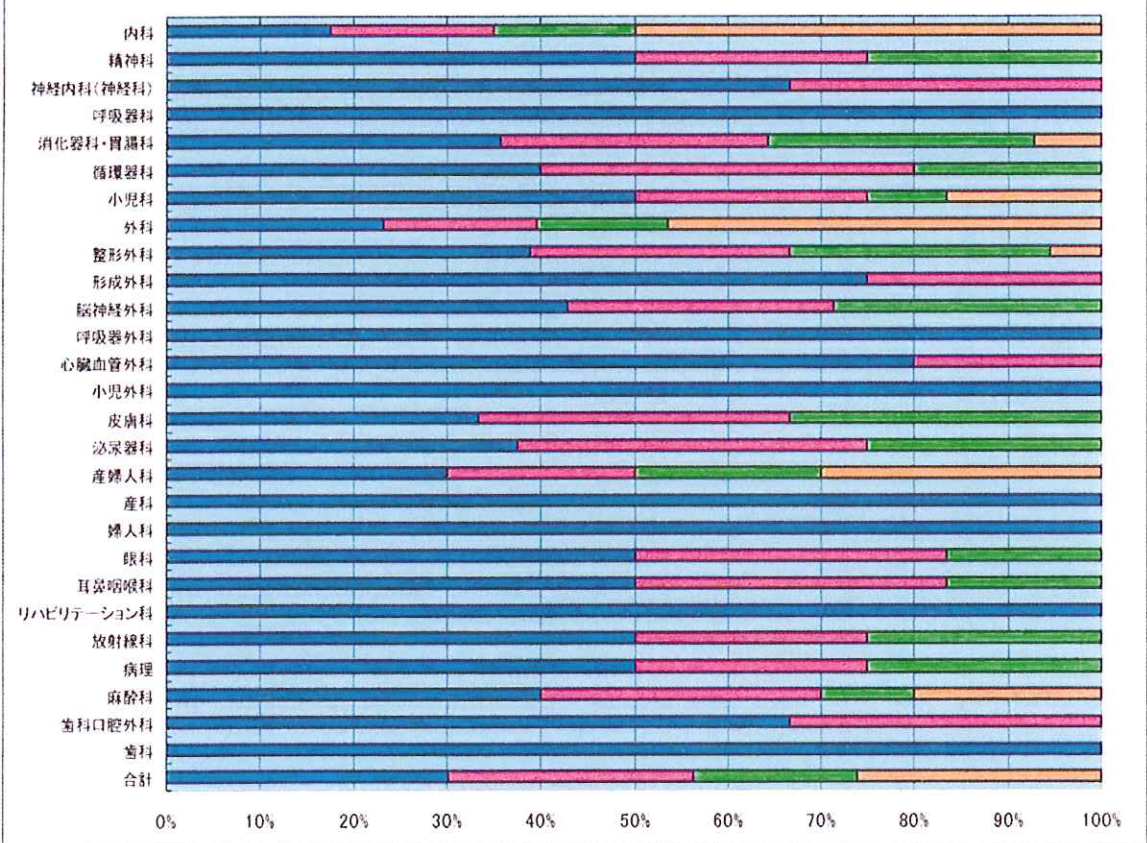




医療施設への医師集中化の状況(置賜地域)



医療施設への医師集中化の状況(庄内地域)



(2) 非常勤医師数

全体

非常勤医師の診療科別構成割合を見ると、内科が66.2人(構成比31.8%)で最も多く、次いで整形外科31.8人(15.3%)、外科14.5人(6.9%)、小児科11.9人(5.7%)、産婦人科11.0人(5.3%)などの順となっている。

表3-(2) 診療科別非常勤医師数

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	割合	4	割合	8	割合	8	割合	40	割合
内科	47.8	30.7%	2.3	37.5%	6.2	25.9%	9.9	44.3%	66.2	31.8%
心療内科	0.2	0.1%							0.2	0.1%
精神科	4.6	2.9%			0.4	1.6%	0.2	1.0%	5.2	2.5%
神経内科(神経科)	0.3	0.2%			0.8	3.2%	0.6	2.5%	1.6	0.8%
呼吸器科	0.1	0.1%			0.2	0.7%			0.3	0.1%
消化器科・胃腸科	1.5	1.0%			1.6	6.8%	0.4	1.9%	3.6	1.7%
循環器科	1.6	1.0%			1.2	5.1%	0.5	2.3%	3.4	1.6%
アレルギー科										
リウマチ科										
小児科	9.0	5.8%	0.3	4.9%	1.3	5.5%	1.3	6.0%	11.9	5.7%
外科	12.2	7.8%			1.0	4.1%	1.2	5.6%	14.5	6.9%
整形外科	26.9	17.3%	1.0	15.7%	3.5	14.6%	0.4	1.9%	31.8	15.3%
形成外科					0.1	0.4%	0.1	0.2%	0.2	0.1%
気管食道科										
脳神経外科	4.2	2.7%					1.1	4.8%	5.2	2.5%
呼吸器外科	0.1	0.1%							0.1	0.0%
心臓血管外科	0.2	0.1%			0.5	2.1%			0.7	0.3%
小児外科							0.1	0.5%	0.1	0.1%
皮膚科	5.8	3.7%			0.5	2.0%	2.2	9.7%	8.4	4.0%
泌尿器科	0.8	0.5%	0.1	1.6%	1.1	4.7%	1.7	7.5%	3.7	1.8%
産婦人科	10.0	6.4%	0.6	9.9%			0.4	1.6%	11.0	5.3%
産科										
婦人科			0.2	3.3%	1.3	5.5%			1.5	0.7%
眼科	6.1	3.9%	0.4	7.0%	0.7	3.1%	0.1	0.5%	7.4	3.5%
耳鼻咽喉科	8.5	5.4%	0.8	12.4%	1.0	4.0%			10.2	4.9%
リハビリテーション科	0.2	0.1%	0.0	0.6%					0.2	0.1%
放射線科	3.2	2.1%			1.3	5.5%	0.9	4.1%	5.5	2.6%
病理	1.0	0.6%	0.4	7.0%	0.4	1.5%	0.7	3.0%	2.4	1.2%
麻酔科	3.2	2.1%			0.7	2.7%	0.6	2.7%	4.4	2.1%



こう門科										
歯科口腔外科	7.4	4.7%			0.2	0.6%			7.6	3.6%
歯科	1.1	0.7%			0.1	0.4%			1.2	0.6%
矯正歯科										
合計	155.9	100.0%	6.1	100.0%	24.0	100.0%	22.3	100.0%	208.3	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

### (3) 研修医数

#### 臨床研修医（前期研修医）

全体では84名で、うち1年目が44名、2年目が40名とほぼ半々であった。

地域別では、村山地域が65名で77.4%を占めており、次いで庄内地域が12名(14.3%)、置賜地域が6名(7.1%)、最上地域が1名(1.2%)と大学病院及び臨床研修指定病院の多い村山地域に臨床研修医（前期研修医）が集中している。

表 3- (3) -1 臨床研修医（前期研修医）数（地域別）

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	1	割合	2	割合	2	割合	9	割合
研修医(計)	65	77.4%	1	1.2%	6	7.1%	12	14.3%	84	100.0%
うち1年目	34	77.3%	1	2.3%	2	4.5%	7	15.9%	44	100.0%
うち2年目	31	77.5%	-	-	4	10.0%	5	12.5%	40	47.6%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

#### 後期研修医

全体では37名で、うち1年目が23名、2年目及び3年目がそれぞれ7名となっている。

地域別では、村山地域が29名で78.4%を占め前期研修医と同様村山地域に集中している。他は庄内地域が8名(21.6%)で、最上地域及び置賜地域は後期研修医がゼロとなっている。

表 3- (3) -1 後期研修医数（地域別）

	村山地域		最上地域	置賜地域	庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	-	-	2	割合	4	割合
研修医(計)	29	78.4%	-	-	8	21.6%	37	100.0%
うち1年目	17	73.9%	-	-	6	26.1%	23	100.0%
うち2年目	6	85.7%	-	-	1	14.3%	7	100.0%
うち3年目	6	85.7%	-	-	1	14.3%	7	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したもの。

(4) 出身医大別及び出身医局別医師数

出身大学の状況

出身大学別医師数及び構成比を見ると、地元「山形大学」が553人(51.6%)と全体の半数以上にのぼる。次いで、「東北大学」106人(9.9%)、「新潟大学」66人(6.2%)、「弘前大学」40人(3.7%)、「自治医科大学」33人(3.1%)、「岩手医科大学」28人(2.6%)、「日本医科大学」27人(2.5%)、「福島県立医科大学」26人(2.4%)、「秋田大学」25人(2.3%)などとなっている。

東北6県の大学出身者は計778人で、全体の72.6%を占めている。さらに、東北6県、北海道及び新潟県医大出身者は861人で全体の80.4%と北海道・東北及び新潟県で8割を占めている。

表3-(4)-1 出身大学別医師数

回答施設数	43	割合
山形大学医学部	553	51.6%
東北大学医学部	106	9.9%
新潟大学医学部	66	6.2%
弘前大学医学部	40	3.7%
自治医科大学	33	3.1%
岩手医科大学	28	2.6%
日本医科大学	27	2.5%
福島県立医科大学	26	2.4%
秋田大学医学部	25	2.3%
北里大学医学部	14	1.3%
北海道大学医学部	13	1.2%
日本大学医学部	9	0.8%
杏林大学医学部	7	0.7%
昭和大学医学部	7	0.7%
金沢医科大学	7	0.7%
東海大学医学部	6	0.6%
埼玉医科大学	5	0.5%
獨協医科大学	5	0.5%
順天堂大学医学部	5	0.5%
東京医科大学	5	0.5%
群馬大学医学部	4	0.4%
筑波大学医学専門学群	4	0.4%
東邦大学医学部	4	0.4%
富山医科薬科大学医学部	4	0.4%
東京大学医学部	4	0.4%
千葉大学医学部	3	0.3%

東京女子医科大学	3	0.3%
大阪大学医学部	3	0.3%
旭川医科大学	3	0.3%
帝京大学医学部	3	0.3%
福井大学医学部	2	0.2%
愛知医科大学	2	0.2%
産業医科大学	2	0.2%
慶應義塾大学医学部	2	0.2%
東京慈恵会医科大学	2	0.2%
信州大学医学部	2	0.2%
名古屋市立大学医学部	2	0.2%
川崎医科大学	2	0.2%
東京歯科大学	2	0.2%
日本歯科大学	2	0.2%
その他	2	0.2%
東京医科歯科大学医学部	1	0.1%
聖マリアンナ医科大学	1	0.1%
山梨大学医学部	1	0.1%
滋賀医科大学	1	0.1%
岡山大学医学部	1	0.1%
熊本大学医学部	1	0.1%
札幌医科大学	1	0.1%
金沢大学医学部	1	0.1%
三重大学医学部	1	0.1%
京都大学医学部	1	0.1%
近畿大学医学部	1	0.1%
九州大学医学部	1	0.1%
佐賀大学医学部	1	0.1%
琉球大学医学部	1	0.1%
防衛医科大学校	1	0.1%
横浜国立大学医学部	1	0.1%
藤田学園藤田保健衛生大学医学部	1	0.1%
徳島大学医学部	1	0.1%
香川大学医学部	1	0.1%
長崎大学医学部	1	0.1%
宮崎大学医学部	1	0.1%
韓国延世大学医学部	1	0.1%
中国医薬学院	1	0.1%
東北大学歯学部	1	0.1%

日本大学歯学部	1	0.1%
合計	1,071	100.0%

#### 出身医局の状況

出身医局別医師数及び構成比を見ると、地元「山形大学」が547人（62.9%）と6割以上にのぼる。次いで、「東北大学」112人（12.9%）、「新潟大学」62人（7.1%）、「日本医科大学」35人（4.0%）、「福島県立医科大学」25人（2.9%）、「弘前大学」16人（1.8%）、「秋田大学」11人（1.3%）などとなっている。東北6県の大学医局出身者は計719人で、全体の82.6%を占めている。

表3-(4)-2 出身医局別医師数

回答施設数	33	割合
山形大学医学部	547	62.9%
東北大学医学部	112	12.9%
新潟大学医学部	62	7.1%
日本医科大学	35	4.0%
福島県立医科大学	25	2.9%
弘前大学医学部	16	1.8%
秋田大学医学部	11	1.3%
岩手医科大学	8	0.9%
北海道大学医学部	6	0.7%
自治医科大学	6	0.7%
昭和大学医学部	6	0.7%
その他	5	0.6%
東京大学医学部	4	0.5%
杏林大学医学部	4	0.5%
群馬大学医学部	2	0.2%
筑波大学医学専門学群	2	0.2%
東京女子医科大学	2	0.2%
富山医科薬科大学医学部	2	0.2%
大阪大学医学部	2	0.2%
北里大学医学部	2	0.2%
順天堂大学医学部	2	0.2%
山形県立中央病院医局	2	0.2%
東京医科歯科大学医学部	1	0.1%
産業医科大学	1	0.1%
日本大学医学部	1	0.1%
慶應義塾大学医学部	1	0.1%
東京慈恵会医科大学	1	0.1%



高知大学医学部	1	0.1%
獨協医科大学	1	0.1%
帝京大学医学部	1	0.1%
東京歯科大学	1	0.1%
東北大学歯学部	1	0.1%
聖マリアンナ	1	0.1%
合計	870	100.0%

#### (5) 常勤医師平均年齢

全体の常勤医師の平均年齢分布は、「40～45歳」が19施設(43.2%)で最も多く、次いで「35～40歳」が11施設(25.0%)、「45～50歳」「50～55歳」がともに5施設(11.4%)などとなっている。

地域別では、村山地域は「40～45歳」が11施設(55.0%)と最も多く5割以上を占めている。

最上地域は、「35～40歳」が全体の半分の2施設であった。

置賜地域は、「35～40歳」が5施設(55.6%)で「40～45歳」の3施設(33.3%)を上回り、地域別では最も若い年齢分布となっている。

庄内地域は、「40～45歳」が4施設(36.4%)と最も多く、次いで「35～40歳」が3施設(27.3%)となっている。同地域では、「50～55歳」「55～60歳」「60歳以上」の施設も各1施設あり、常勤医師の高齢化の一端がうかがえる。

表3-(5) 常勤医師平均年齢の医療施設分布(地域別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	9	比率	11	比率	44	比率
35歳未満							1	9.1%	1	2.3%
35歳以上40歳未満	1	5.0%	2	50.0%	5	55.6%	3	27.3%	11	25.0%
40歳以上45歳未満	11	55.0%	1	25.0%	3	33.3%	4	36.4%	19	43.2%
45歳以上50歳未満	4	20.0%	1	25.0%					5	11.4%
50歳以上55歳未満	3	15.0%			1	11.1%	1	9.1%	5	11.4%
55歳以上60歳未満	1	5.0%					1	9.1%	2	4.5%
60歳以上							1	9.1%	1	2.3%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

#### (6) 常勤医師平均経験年数

全体の常勤医師の平均経験年数分布は、「15～20年」が20施設(45.5%)と最も多く、次いで「10～15年」が13施設(29.5%)と「10～20年」の平均経験年数で75.0%と4分の3を占めている。また、「25～30年」が2施設、「30～35年」が3施設、「35年以上」が1施設と経験豊富な医師を中心に配置している施設が各1施設あった。一方、「10年未満」の施設は1施設のみで、若手医師を中心に配置している施設は少なかった。

た。

地域別では、村山地域は、「15～20年」が11施設（55.0%）と最も多く、次いで「10～15年」「20～25年」がともに3施設（15.0%）であった。

最上地域は、「10～15年」「15～20年」がそれぞれ2施設であった。

置賜地域は、「10～15年」「15～20年」がともに4施設（44.4%）であった。

庄内地域は、「10～15年」が4施設（36.4%）、次いで「15～20年」が3施設（27.3%）であった。

表3-（6） 常勤医師平均経験年数の医療施設分布（地域別）

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	9	比率	11	比率	44	比率
10年未満							1	9.1%	1	2.3%
10年以上15年未満	3	15.0%	2	50.0%	4	44.4%	4	36.4%	13	29.5%
15年以上20年未満	11	55.0%	2	50.0%	4	44.4%	3	27.3%	20	45.5%
20年以上25年未満	3	15.0%					1	9.1%	4	9.1%
25年以上30年未満	1	5.0%			1	11.1%			2	4.5%
30年以上35年未満	2	10.0%					1	9.1%	3	6.8%
35年以上							1	9.1%	1	2.3%

（注）「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

（7）常勤医師平均勤務年数

各医療施設への医師の定着度を見る一つの指標として調査した。

全体では、「5～10年」が20施設（48.8%）と最も多く、次いで「5年未満」が12施設（29.3%）と「10年未満」の施設が全体の8割弱（78.1%）という結果となった。平均勤務年数が「15～20年」「20年～」はそれぞれ3施設、2施設にとどまった。

地域別では、村山地域は、「5～10年」が10施設（50.0%）と最も多く、次いで「5年未満」が5施設（25.0%）であった。

最上地域は、「5年未満」「5～10年」がともに2施設であった。

置賜地域は、「5年未満」「5～10年」がともに4施設であった。

庄内地域は、「5～10年」が4施設（44.4%）と最も多かったが、他地域では該当のない「20年～」が2施設あったことが特徴的であった。

表3-（7） 常勤医師平均年齢の医療施設分布（地域別）

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	20	比率	4	比率	8	比率	9	比率	41	比率
5年未満	5	25.0%	2	50.0%	4	50.0%	1	11.1%	12	29.3%
5年以上10年未満	10	50.0%	2	50.0%	4	50.0%	4	44.4%	20	48.8%
10年以上15年未満	2	10.0%					2	22.2%	4	9.8%
15年以上20年未満	3	15.0%							3	7.3%



20年以上						2	22.2%	2	4.9%
-------	--	--	--	--	--	---	-------	---	------

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

### (8) 不足医師数

#### ① 医療法に基づく標準医師数に対する不足医師数

##### 全体

標準医師数に対する不足医師数は全体で43人、うち村山地域が16人、最上地域が6人、置賜地域が15人、庄内地域が6人であった。

「不足なし」は21施設(47.7%)で、標準医師数を充足している施設は半数に満たなかった。「不足数1人未満」が6施設(13.6%)、「1人～2人未満」が8施設(18.2%)

「2人～3人未満」が5施設(11.4%)、「3人～4人未満」が1施設(2.3%)であった。さらに、「4人以上不足」と厳しい状況にある施設が3施設(6.8%)であった。

##### 地域別

- ・ 村山地域:「不足なし」が11施設(55.0%)と4割以上が標準医師数を満たしていない。不足数が、「1人未満」が2施設(10.0%)、「1人～2人未満」が4施設(20.0%)「2人～3人未満」が2施設(10.0%)であった。さらに、「4人以上」と厳しい医師不足の状況にある施設が1施設(5.0%)であった。
- ・ 最上地域:「不足なし」が2施設(50.0%)、不足数が「2人～3人未満」が1施設(25.0%)であり、「4人以上」と厳しい医師不足の状況にある施設が1施設(25.0%)であった。
- ・ 置賜地域:「不足なし」が3施設(33.3%)と地域全体の三分の一にとどまっている。不足数が「1人未満」「1人～2人未満」がともに1施設(11.1%)、「2人～3人未満」が2施設(22.2%)であり、「4人以上」と厳しい医師不足の状況にある施設が1施設(11.1%)であった。
- ・ 庄内地域:「不足なし」が5施設(45.5%)と半数に満たなかった。不足数が「1人未満」が3施設(27.3%)、「1人～2人未満」が3施設(27.3%)であった。「2人以上不足」の施設はゼロであり、他地域に比べ不足医師数の水準を見ると比較的充足されている。

表3-(8)-1 標準医師数に対する充足状況(地域別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率
不足なし	11	55.0%	2	50.0%	3	33.3%	5	45.5%	21	47.7%
1人未満	2	10.0%			1	11.1%	3	27.3%	6	13.6%
1人以上2人未満	4	20.0%			1	11.1%	3	27.3%	8	18.2%
2人以上3人未満	2	10.0%	1	25.0%	2	22.2%			5	11.4%
3人以上4人未満					1	11.1%			1	2.3%
4人以上	1	5.0%	1	25.0%	1	11.1%			3	6.8%



不足医師数の合計	16		6		15		6		43
----------	----	--	---	--	----	--	---	--	----

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したもの。

(2) 診療科別定員に対する不足医師数

全 体

回答医療施設の医師定員合計に対する不足数は49人との回答結果であった。

診療科別では、「内科」が14人と最も多く、次いで「整形外科」が7人、「耳鼻咽喉科」、「産婦人科」及び「放射線科」がそれぞれ4人不足であった。

さらに、「小児科」、「皮膚科」、「外科」、「泌尿器科」及び「リハビリテーション科」がそれぞれ2人、「神経内科（神経科）」、「麻酔科」、「脳神経外科」、「小児外科」、「眼科」及び「人工透析科」がそれぞれ1人不足であった。

地域別では、村山地域が18人、最上地域が9人、置賜地域が7人、庄内地域が15人それぞれ不足であった。

表3-(8)-2 定員に対する不足医師数（地域別・診療科別）

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	定員数	不足数	定員数	不足数	定員数	不足数	定員数	不足数	定員数	不足数
内科	18	6	4	1	9	4	2	3	33	14
神経内科(神経科)							1	1	1	1
小児科			3	1			2	1	5	2
外科							9	2	9	2
整形外科	15	6	3	1					18	7
脳神経外科			3	1					3	1
小児外科	2	1							2	1
皮膚科					2	1	1	1	3	2
泌尿器科			3	1			3	1	6	2
産婦人科	2	1	3	2			4	1	9	4
眼科	1	1							1	1
耳鼻咽喉科	2	1			2	1	2	2	6	4
リハビリテーション科			1	1			1	1	2	2
放射線科	5	2			2	1	2	1	9	4
麻酔科							2	1	2	1
人工透析科			1	1					1	1
合計	45	18	21	9	15	7	29	15	110	49

地域別にみた診療科別定員に対する不足医師数

次に、不足医師数について、地域別に診療科ごとの構成比を見ると、村山地域では、「内科」「整形外科」がともに6人（33.3%）、「放射線科」が2人（11.1%）などとな

っている。

最上地域では、「産婦人科」が2人(22.2%)のほか、「内科」「小児科」「整形外科」「泌尿器科」「リハビリテーション科」「脳神経外科」「人工透析科」がそれぞれ1人であった。

置賜地域では、「内科」が4人(58.8%)、「皮膚科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」がそれぞれ1人となっている。

庄内地域では、「内科」が3人(19.7%)、「耳鼻咽喉科」「外科」がともに2人(13.2%)、「神経内科(神経科)」「小児科」「皮膚科」「麻酔科」「泌尿器科」「リハビリテーション科」「産婦人科」「放射線科」がともに1人であった。

表3-(8)-3 定員に対する不足医師数割合(地域別に見た診療科ごとの構成比)

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	33.3%	11.1%	58.8%	19.7%	28.9%
神経内科(神経科)				6.6%	2.0%
小児科		11.1%		6.6%	4.0%
外科				13.2%	4.0%
整形外科	33.3%	11.1%			14.1%
脳神経外科		11.1%			2.0%
小児外科	5.6%				2.0%
皮膚科			13.7%	6.6%	4.0%
泌尿器科		11.1%		6.6%	4.0%
産婦人科	5.6%	22.2%		7.9%	8.5%
眼科	5.6%				2.0%
耳鼻咽喉科	5.6%		13.7%	13.2%	8.1%
リハビリテーション科		11.1%		6.6%	4.0%
放射線科	11.1%		13.7%	6.6%	8.1%
麻酔科				6.6%	2.0%
人工透析科		11.1%			2.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

#### 診療科別定員に対する地域ごとの不足医師数

4地域すべてで不足している診療科は、「内科」のみ(14人)で、そのうち村山地域が6人、最上地域1人、置賜地域4人、庄内地域3人となっている。

3地域で不足している診療科は、「耳鼻咽喉科」「放射線科」が最上地域を除く3地域で、「産婦人科」が置賜地域を除く3地域で不足している。

2地域で不足している診療科は、「小児科」が最上地域及び庄内地域で、「皮膚科」が置賜地域及び庄内地域で、「泌尿器科」が最上地域及び庄内地域で、「リハビリテーション科」が最上地域及び庄内地域で、「整形外科」が村山地域及び最上地域でそれぞれ不足している。「神経内科(神経科)」「麻酔科」「外科」「脳神経外科」「眼科」「人工透析



科」などは1地域でのみ不足であった。

表3-(8)-4 定員に対する不足医師数割合（診療科別に見た地域ごとの構成比）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	42.0%	7.0%	30.0%	21.0%	100.0%
神経内科(神経科)				100.0%	100.0%
小児科		50.0%		50.0%	100.0%
外科				100.0%	100.0%
整形外科	85.7%	14.3%			100.0%
脳神経外科		100.0%			100.0%
小児外科	100.0%				100.0%
皮膚科			50.0%	50.0%	100.0%
泌尿器科		50.0%		50.0%	100.0%
産婦人科	23.8%	47.6%		28.6%	100.0%
眼科	100.0%				100.0%
耳鼻咽喉科	25.0%		25.0%	50.0%	100.0%
リハビリテーション科		50.0%		50.0%	100.0%
放射線科	50.0%		25.0%	25.0%	100.0%
麻酔科				100.0%	100.0%
人工透析科		100.0%			100.0%
合計	36.4%	18.2%	14.7%	30.7%	100.0%

③ (1)(2)以外の理由による要求医師数

診療科別要求医師数

全体の要求医師数は110人であった。これを診療科別に見ると、「内科」が35人で全体の31.9%と最も多く、次いで「整形外科」14人、「外科」12人、「麻酔科」「産婦人科」がともに6人、「小児科」が5人、「循環器科」「耳鼻咽喉科」「消化器科・胃腸科」がともに4人、「脳神経外科」「眼科」がともに3名、「皮膚科」「呼吸器科」「放射線科」などがともに2人必要との結果であった。また要求医師数が1人の診療科は、「神経内科(神経科)」、「泌尿器科」、「婦人科」、「精神科」及び「病理」であった。

重要度別要求医師数

「医療法に基づく標準医師数に対する不足数」及び「診療科別定員に対する不足医師数」を除き、各医療施設において今後要求を考えている医師数を重要度別に調査した。重要度の区分は、「A:1人体制の解消等現状の改善のためにできるだけ早期に必要」、「B:病院機能の充実、医療レベルの向上等のために将来的には必要」、「C:その他」とした。

要求医師数110人のうち、重要度[A]が43人(39.1%)、[B]が33人(30.0%)、[C]が3人(2.7%)、重要度区分記載なしが31人であった。

診療科別に見ると、「内科」は[B]が10人で、[A]の7人を上回り、どちらかと云えば将



來的に充足させたい診療科の傾向が見られる。レベル[A]の要求医師数では、「整形外科」が6人と「内科」に次いで多く、「外科」が5人、「循環器科」「小児科」「麻酔科」「消化器科・胃腸科」がともに3人などであった。特に、「循環器科」、「消化器科・胃腸科」の各3人は要求医師数のすべてがレベル[A]であり、当該診療科医師の確保が急務となっている現状が認められる。また、「外科」(5人)、「麻酔科」(3人)もレベル[A]が多く、早期の充足を求めているものと考えられる。

特にレベル[A]で要求している主な理由は、「常勤医1人体制による過重労働の解消」「開業、退職、引き揚げ等に伴う常勤医ゼロの解消」など切実な現状打開の必要性を訴えるものが多かった。

地域別では、村山地域が46人、最上地域が10人、置賜地域が28人、庄内地域が25人であった。これを、重要度別に見ると、村山地域ではレベル[A]が14人(30.4%)、[B]が22人(47.8%)、[C]が2人(4.3%)と[B]が[A]を大きく上回った。最上地域では、[A]はゼロ、[B]が5人であった。置賜地域では、[A]が23人(82.1%)、[B]が1人(3.6%)と[A]が際立って多かった。庄内地域では、[A]が6人、[B]が5人、[C]が1人と要求医師数25人のうち半数に区分記載がなく、重要度の実態が十分把握できなかった。

表3- (8) -5 重要度別要求医師数(地域別・診療科別)

	村山地域				最上地域				置賜地域				庄内地域				合計			
	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C	要求医師数	A	B	C
内科	14	3	6	1	6		2		5	3			10	1	2		35	7	10	1
精神科	1		1														1		1	
神経内科(神経科)									1		1						1		1	
呼吸器科	1	1							1	1							2	2		
消化器科・胃腸科									2	2			2	1			4	3		
循環器科									2	2			2	1			4	3		
小児科	3	2	1						2	1							5	3	1	
外科	3	2	1		3		1		3	2			3	1			12	5	2	
整形外科	8	3	3		1		1		2	2			3	1	1		14	6	5	
脳神経外科	2		1						1	1							3	1	1	
皮膚科	1		1										1	1			2	1	1	
泌尿器科									1	1							1	1		
産婦人科	2	1	1						1	1			3		1	1	6	2	2	1
婦人科	1		1		1		1										2		2	
眼科	2		2						1	1							3	1	2	
耳鼻咽喉科	2		2						1	1			1	1			4	1	3	

放射線科	1		1					1	1					2	1	1
病理	1	1												1	1	
麻酔科	4	1	1	1				2	2					6	3	1
内分泌代謝内科								2	2					2	2	
合計	46	14	22	2	11	5		28	23	1		25	6	5	1	110

※「要求医師数」に記載があるが、「重要度別」に記載がない回答施設があるため、要求医師数と内訳は必ずしも一致しない。

表 3- (8) -6 要求医師数（地域別に見た診療科ごとの構成比）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	30.4%	57.7%	17.9%	39.7%	31.9%
精神科	2.2%				0.9%
神経内科(神経科)			3.6%		0.9%
呼吸器科	2.2%		3.6%		1.8%
消化器科・胃腸科			7.1%	7.9%	3.6%
循環器科			7.1%	7.9%	3.6%
小児科	6.5%		7.1%		4.6%
外科	6.5%	28.8%	10.7%	11.9%	10.9%
整形外科	17.4%	9.6%	7.1%	11.9%	12.8%
脳神経外科	4.3%		3.6%		2.7%
皮膚科	2.2%			4.0%	1.8%
泌尿器科			3.6%		0.9%
産婦人科	4.3%		3.6%	12.7%	5.7%
婦人科	2.2%	3.8%			1.3%
眼科	4.3%		3.6%		2.7%
耳鼻咽喉科	4.3%		3.6%	4.0%	3.6%
放射線科	2.2%		3.6%		1.8%
病理	2.2%				0.9%
麻酔科	8.7%		7.1%		5.5%
内分泌代謝内科			7.1%		1.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3- (8) -7 要求医師数（診療科別に見た地域ごとの構成比）

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
内科	40.0%	17.1%	14.3%	28.6%	100.0%
精神科	100.0%				100.0%
神経内科(神経科)			100.0%		100.0%
呼吸器科	50.0%		50.0%		100.0%
消化器科・胃腸科			50.0%	50.0%	100.0%

循環器科			50.0%	50.0%	100.0%
小児科	60.0%		40.0%		100.0%
整形外科	57.1%	7.1%	14.3%	21.4%	100.0%
脳神経外科	66.7%		33.3%		100.0%
皮膚科	50.0%			50.0%	100.0%
泌尿器科			100.0%		100.0%
産婦人科	32.3%		16.1%	51.6%	100.0%
婦人科	71.4%	28.6%			100.0%
眼科	66.7%		33.3%		100.0%
耳鼻咽喉科	50.0%		25.0%	25.0%	100.0%
放射線科	50.0%		50.0%		100.0%
病理	100.0%				100.0%
麻酔科	66.7%		33.3%		100.0%
内分泌代謝内科			100.0%		100.0%
合計	42.0%	9.5%	25.5%	23.0%	100.0%

#### (9) 離職医師数及び離職理由

##### 年度別離職医師数の推移

全体では、平成14年度が273人に対し、平成15年度が284人で前年度に比べ11人増加した。参考までに、平成10年度の離職医師数は142人であった。

地域別では、村山地域は平成14年度134人が平成15年度138人で4人増、最上地域は12人から17人で5人増、置賜地域は57人から58人で1人増、庄内地域は70人から71人で1人増となっており、すべての地域で離職医師が増加した。

##### 離職理由

平成15年度離職者数284人についてその離職理由を見ると、「医局人事により他病院へ」が161人(56.7%)と最も多く、次いで「大学医局へ」が73人(25.7%)、「医局人事以外の理由により他病院へ」が20人(7.0%)、「開業」が19人(6.7%)、「退職」が7人(2.5%)、「その他」が4人(1.4%)であった。

参考までに平成10年度の離職理由別比率を見ると、「医局人事により他病院へ」が54.2%と最も多く、次いで「大学医局へ」が28.2%、「開業」が9.9%、「退職」が2.8%、「医局人事以外の理由により他病院へ」が2.1%などであった。「開業」による離職理由が3番目で、その比率も平成15年度より3.1ポイント上回っていることが特徴的である。

##### 平成15年度及び平成14年度増減比較

###### <全体>

平成15年度の離職理由ごとの離職者数を前年度と比較すると、「開業」が平成15年



度は19人で前年度と変化はなかった。「大学医局へ」は73人で9人増、「退職」は7人で9人減、「医局人事により他病院へ」は161人で12人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は20人で3人増であった。「医局人事により他病院へ」「大学医局へ」の理由による離職者数の増が全体の増の主要因となっている。

<地域別>

- ・ 対平成14年度離職者数を地域合計で見ると、村山地域が4人、最上地域が5人、置賜地域及び庄内地域がともに1人増と全地域で前年度に比べ増加した。
- ・ 村山地域：「開業」が平成15年度は10人で前年度に比べ2人減、「大学医局へ」は29人で6人増、「退職」は5人で6人減、「医局人事により他病院へ」は85人で5人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は9人で1人増であった。
- ・ 最上地域：「開業」が1人で1人増、「大学医局へ」は9人で4人増、「退職」は0人で増減なし、「医局人事により他病院へ」は7人で1人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は0人で増減なしであった。
- ・ 置賜地域：「開業」が6人で4人増、「大学医局へ」は26人で10人増、「退職」は1人で1人減、「医局人事により他病院へ」は22人で7人減、「医局人事以外の理由により他病院へ」は2人で1人減であった。
- ・ 庄内地域：「開業」が2人で3人減、「大学医局へ」は9人で11人減、「退職」は1人で2人減、「医局人事により他病院へ」は47人で13人増、「医局人事以外の理由により他病院へ」は9人で3人増であった。

表3-(9) 離職医師及び離職理由（地域別）

		村山 地域	最上 地域	置賜 地域	庄内 地域	合計	構成比
回答施設数		16	4	8	10	38	
平成14年度離職医師数		134	12	57	70	273	100.0%
内 訳	A:開業	施設数	6	1	4	11	7.0%
		人数	12	2	5	19	
	B:大学医局へ	施設数	8	1	4	4	23.4%
		人数	23	5	16	20	
	C:退職	施設数	4		2	2	5.9%
		人数	11		2	3	
	D:医局人事により他病院へ	施設数	10	2	4	6	54.6%
		人数	80	6	29	34	
	E:D以外の理由により他病院へ	施設数	3		2	3	6.2%
		人数	8		3	6	
F:その他	施設数		1	2	2	2.9%	
	人数		1	5	2		8
平成15年度離職医師数		138	17	58	71	284	100.0%



		対H14	4	5	1	1	11	
内訳	A:開業	施設数	6	1	2	2	11	6.7%
		人数	10	1	6	2	19	
		対H14	△ 2	1	4	△ 3	0	
	B:大学医局へ	施設数	8	2	4	5	19	25.7%
		人数	29	9	26	9	73	
		対H14	6	4	10	△ 11	9	
	C:退職	施設数	4		1	1	6	2.5%
		人数	5		1	1	7	
		対H14	△ 6	0	△ 1	△ 2	△ 9	
	D:医局人事により他病院へ	施設数	12	3	4	7	26	56.7%
		人数	85	7	22	47	161	
		対H14	5	1	△ 7	13	12	
	E:D以外の理由により他病院へ	施設数	5		1	4	10	7.0%
		人数	9		2	9	20	
		対H14	1	0	△ 1	3	3	
	F:その他	施設数			1	3	4	1.4%
		人数			1	3	4	
		対H14	0	△ 1	△ 4	1	△ 4	
平成 10 年度離職医師数			99	3	18	22	142	100.0%
内訳	A:開業	施設数	4		1	1	6	9.9%
		人数	8		1	5	14	
	B:大学医局へ	施設数	5		2	1	8	28.2%
		人数	28		4	8	40	
	C:退職	施設数	2		1		3	2.8%
		人数	2		2		4	
	D:医局人事により他病院へ	施設数	8	2	3	2	15	54.2%
		人数	58	3	8	8	77	
	E:D以外の理由により他病院へ	施設数	1			1	2	2.1%
		人数	2			1	3	
	F:その他	施設数	1		1		2	2.8%
		人数	1		3		4	

(10) 常勤医師一人当たり年間給与額（平成 15 年度実績：千円）

常勤医師一人当たり年間給与額の施設分布を見ると、全体では「15,000～20,000千円」が27施設（64.3%）と最も多く、次いで「10,000～15,000千円」が7施設（16.7%）、「20,000千円～」が6施設（14.3%）であった。

地域別では、村山地域、置賜地域、庄内地域は「15,000～20,000千円」が最も多く、それぞれの割合は60.0%、77.8%、88.9%であった。最上地域は「20,000千円～」が4

施設のうち3施設と最も多く、医師確保において給与面で配慮していることがうかがえる。

表3-(10) 常勤医師一人当たり年間給与額分布(地域別)

(単位:千円)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率
5,000千円未満										
5,000千円以上 10,000千円未満	2	10.0%							2	4.8%
10,000千円以上 15,000千円未満	4	20.0%	1	25.0%	1	11.1%	1	11.1%	7	16.7%
15,000千円以上 20,000千円未満	12	60.0%			7	77.8%	8	88.9%	27	64.3%
20,000千円以上	2	10.0%	3	75.0%	1	11.1%			6	14.3%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

(1.1) 非常勤医師一人当たり平均報酬額(平成15年度実績:千円)

非常勤医師一人当たり平均報酬額の施設分布を見ると、全体では「500千円未満」が最も多く、11施設(34.4%)、次いで「1,500~2,000千円」が7施設(21.9%)であった。この結果を見ると、フルタイムより半日等の勤務形態が多いことがうかがえる。

地域別では、村山地域は「1,500~2,000千円」(35.7%)、最上地域は「2,000~2,500千円」(66.7%)、置賜地域及び庄内地域は「500千円未満」(50.0%、57.1%)が最も多く、地域あるいは医療施設の応援医師必要性等の需給事情が反映しているものと推察される。

表3-(11) 常勤医師一人当たり年間報酬額分布(地域別)

(単位:千円)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率	回答施設数	比率
500千円未満	3	21.4%			4	50.0%	4	57.1%	11	34.4%
500千円以上 1,000千円未満	3	21.4%							3	9.4%
1,000千円以上 1,500千円未満	1	7.1%	1	33.3%	1	12.5%			3	9.4%
1,500千円以上 2,000千円未満	5	35.7%			1	12.5%	1	14.3%	7	21.9%
2,000千円以上 2,500千円未満			2	66.7%	1	12.5%			3	9.4%
2,500千円以上 3,000千円未満	1	7.1%							1	3.1%
3,000千円以上	1	7.1%			1	12.5%	2	28.6%	4	12.5%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

(1.2) 常勤医師一人当たり年間平均手当額(平成15年度実績:千円)

時間外勤務手当、特殊勤務手当、宿日直手当等の医師に支給されている手当額の施設分布を見ると、全体では、「8,000~9,000千円」「9,000~10,000千円」「10,000~11,000



千円]がともに4施設(10.3%)とこの手当額層で全体の3割を占めている。また、「12,000千円以上」が8施設(20.5%)で4分の1を占めている。一方、「5,000千円未満」が11施設(28.2%)と約3割にのぼり、「5,000千円未満」「5,000～12,000千円」「12,000千円以上」の三極化がうかがえる。

表3-(12) 常勤医師一人当たり年間平均手当額分布(地域別)

(単位:千円)

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	19	比率	4	比率	9	比率	7	比率	39	比率
1,000千円未満	2	10.5%			1	11.1%			3	7.7%
1,000千円以上 2,000千円未満	2	10.5%							2	5.1%
2,000千円以上 3,000千円未満	2	10.5%					1	14.3%	3	7.7%
3,000千円以上 4,000千円未満	2	10.5%							2	5.1%
4,000千円以上 5,000千円未満	1	5.3%							1	2.6%
5,000千円以上 6,000千円未満										
6,000千円以上 7,000千円未満	1	5.3%					1	14.3%	2	5.1%
7,000千円以上 8,000千円未満	1	5.3%			1	11.1%	1	14.3%	3	7.7%
8,000千円以上 9,000千円未満	1	5.3%	1	25.0%	1	11.1%	1	14.3%	4	10.3%
9,000千円以上 10,000千円未満	2	10.5%					2	28.6%	4	10.3%
10,000千円以上 11,000千円未満	2	10.5%			2	22.2%			4	10.3%
11,000千円以上 12,000千円未満	1	5.3%			2	22.2%			3	7.7%
12,000千円以上 13,000千円未満	1	5.3%			1	11.1%			2	5.1%
13,000千円以上 14,000千円未満			1	25.0%	1	11.1%			2	5.1%
14,000千円以上 15,000千円未満			1	25.0%			1	14.3%	2	5.1%
15,000千円以上	1	5.3%	1	25.0%					2	5.1%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

(13) 常勤医師一人当たり研究費(平成15年度実績:千円)

全体では、「250千円未満」が12施設(42.9%)と最も多く、次いで「250～500千円」が8施設(28.6%)で「500千円未満」で20施設(71.5%)と7割以上にのぼり、医師に対する研究助成の厳しい現状がうかがえる。

表3-(13) 常勤医師一人当たり研究費分布(地域別)

(単位:千円)

回答施設数	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	11	比率	3	比率	9	比率	5	比率	28	比率
250千円未満	4	36.4%	1	33.3%	4	44.4%	3	60.0%	12	42.9%
250千円以上 500千円未満	2	18.2%			5	55.6%	1	20.0%	8	28.6%
500千円以上 750千円未満	3	27.3%							3	10.7%



750千円以上 1,000千円未満										
1,000千円以上 1,250千円未満										
1,250千円以上 1,500千円未満			1	33.3%			1	20.0%	2	7.1%
1,500千円以上	2	18.2%	1	33.3%					3	10.7%

(注)「比率」は各区分の施設数を全回答施設数にて除したものの。

#### 4 患者数について

##### (1) 診療科別一日平均入院患者数 (平成15年度実績)

###### 全体

「内科」が2,696.3人と最も多く、全入院患者数8,157.8人の33.1%を占めている。次いで、「外科」が1,109.5人(13.6%)、「整形外科」が1,041.1人(12.8%)、「脳神経外科」が539.8人(6.6%)、「小児科」が460.6人(5.6%)、「産婦人科」が434.9人(5.3%)などとなっている。

###### 地域別の特徴

- ・ 村山地域：「内科」が1,352.0人(地域計4,225.5人の32.0%)と最も多く、次いで、「整形外科」が605.6人(14.3%)、「外科」が524.9人(12.4%)、「脳神経外科」が273.5人(6.5%)、「産婦人科」が264.7人(6.3%)、「小児科」が244.5人(5.8%)などとなっている。同地域は「産婦人科」の割合が6.5%と全体平均(5.3%)を上回っている。
- ・ 最上地域：「内科」が255.5人(地域計503.6人の50.7%)と入院患者の半分以上が内科となっており、全体平均の33.1%を大きく上回っている。次いで、「整形外科」が90.2人(17.9%)、「外科」が66.1人(13.1%)などとなっている。一方、「小児科」8.3人(1.6%)、「産婦人科」12.0人(2.4%)は全体平均(5.6%、5.3%)に比べ構成割合が低い。
- ・ 置賜地域：「内科」が445.9人(地域計1,587.6人の28.1%)と最も多く、次いで「外科」が173.2人(10.9%)、「整形外科」が161.7人(10.2%)などとなっている。同地域は「小児科」が地域計の9.7%を占め、全体平均(5.6%)を大きく上回っている。
- ・ 庄内地域：「内科」が643.3人(地域計1,841.1人の34.9%)と最も多く、次いで「外科」が345.4人(18.8%)、「整形外科」が183.6人(10.0%)となっている。同地域では、循環器科が2.9%と全体平均(1.6%)を大きく上回っている。

表4-(1)-1 一日平均入院患者数(地域別・診療科別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	回答施設数	割合	回答施設数	割合	回答施設数	割合	回答施設数	割合
内科	1,352.0	32.0%	255.5	50.7%	445.9	28.1%	643.3	34.9%	2,696.6	33.1%
心療内科	0.2	0.0%							0.2	0.0%
精神科	54.8	1.3%			140.2	8.8%	11.6	0.6%	206.6	2.5%

神経内科(神経科)	151.0	3.6%			57.3	3.6%	39.5	2.1%	247.8	3.0%
呼吸器科	104.1	2.5%			46.5	2.9%	44.9	2.4%	195.5	2.4%
消化器科・胃腸科	89.2	2.1%			63.1	4.0%	130.3	7.1%	282.6	3.5%
循環器科	47.1	1.1%			25.5	1.6%	54.3	2.9%	126.9	1.6%
アレルギー科										
リウマチ科										
小児科	244.5	5.8%	8.3	1.6%	153.8	9.7%	54.0	2.9%	460.6	5.6%
外科	524.9	12.4%	66.1	13.1%	173.2	10.9%	345.4	18.8%	1,109.5	13.6%
整形外科	605.6	14.3%	90.2	17.9%	161.7	10.2%	183.6	10.0%	1,041.1	12.8%
形成外科	13.4	0.3%			2.1	0.1%	15.6	0.8%	31.1	0.4%
気管食道科										
脳神経外科	273.5	6.5%	37.5	7.4%	111.9	7.0%	116.9	6.3%	539.8	6.6%
呼吸器外科	12.4	0.3%					7.0	0.4%	19.4	0.2%
心臓血管外科	41.2	1.0%			20.7	1.3%	3.0	0.2%	64.9	0.8%
小児外科							2.5	0.1%	2.5	0.0%
皮膚科	33.9	0.8%	5.2	1.0%	6.4	0.4%	10.8	0.6%	56.3	0.7%
泌尿器科	142.9	3.4%	16.4	3.3%	60.0	3.8%	47.3	2.6%	266.6	3.3%
産婦人科	264.7	6.3%	12.0	2.4%	71.1	4.5%	87.1	4.7%	434.9	5.3%
産科							23.4	1.3%	23.4	0.3%
婦人科					2.6	0.2%			2.6	0.0%
眼科	55.6	1.3%	2.5	0.5%	14.9	0.9%	15.4	0.8%	88.4	1.1%
耳鼻咽喉科	92.4	2.2%	9.7	1.9%	27.5	1.7%	38.4	2.1%	168.0	2.1%
リハビリテーション科	126.2	3.0%							126.2	1.5%
放射線科	4.2	0.1%							4.2	0.1%
病理										
麻酔科	0.9	0.0%			0.7	0.0%	0.2	0.0%	1.8	0.0%
こころ門科										
歯科口腔外科	12.9	0.3%			2.5	0.2%	2.9	0.2%	18.3	0.2%
歯科	1.0	0.0%					1.2	0.1%	2.2	0.0%
矯正歯科										
合計	4,225.5	100.0%	503.6	100.0%	1,587.6	100.0%	1,841.1	100.0%	8,157.8	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したものの。

#### 医師(常勤)一人一日当たり入院患者数

<全体>—主な診療科—

患者数の多い診療科では、「リハビリテーション科」が21.0人、「内科」が12.3人、「脳神経外科」が12.0人、「整形外科」が11.0人などに対し、患者数の少ない診療科では、「皮膚科」が2.3人、「眼科」が2.5人、「形成外科」が3.5人などであった。